

平成 28 年 11 月から行われているフッ化物洗口について説明します。大分市の 12 歳児のむし歯本数は年々改善しているものの、平成 27 年度都道府県別 12 歳児一人平均むし歯本数が大分県は全国ワースト 2 位であることから、平成 28 年 11 月より大分市教育委員会が「大分市小中学校における歯と口の健康づくり事業」を行っています。「学校におけるむし歯予防手引」（大分市教育委員会作成）に則り歯みがき指導・食に関する指導・フッ化物の活用を三本柱とし、フッ化物の活用としてフッ化物洗口が行われています。平成 28 年度は小中 1 校ずつのモデル校において実施され、平成 29 年度からは小学校 14 校、中学校 2 校で行われています。対象校は、順次拡大していき、平成 32 年度には全小中学校で実施する予定になっています。

フッ化物洗口は、歯科医の指示書に基づいて行われ、保護者の同意を得た児童生徒を対象としています。週 1 回で年 36 回程度行われ、実施日時は各学校で決定します。フッ化物洗口液を薬剤師が希釈し、教育委員会が学校に配送し、学校の保管庫で管理・保管します。実施日に学級担任が紙コップに 10mL ずつ取り分けて児童生徒に配り、30 秒間ブクブクうがいを行います。

学校薬剤師が薬局で行うことは、フッ化物洗口液の調整とフッ化物洗口液をいれるボトルの洗浄です。流れとしては、配送前日にフッ化物洗口液の調整を行い、クラス毎のボトルに入れて薬局で保管します。翌日に大分市教育委員会から委託を受けた配送業者が薬局にフッ化物洗口液が入ったボトルを取りに来て学校に配送します。同日に前回配送したボトルを配送業者が薬局に持ってくるので、それを洗浄して次回の調整時に使用します。

フッ化物洗口液は、オラブリス洗口用顆粒 11% 6g（1 包）を 332mL の水道水に溶かした濃度（約 900ppm）に調整します。各クラスの人数に合わせてボトルに必要量準備します。目安としては、30 人以下のクラスは 332mL、30 人以上のクラスは 498mL です。クラスの人数に合わせてフッ化物洗口液の量は微調整します。

ボトルの洗浄は、ボトル部分とポンプ部分の洗浄を行います。ボトル部分は、スポンジブラシなどを使用して内側を洗浄し、しっかり水道水ですすいでよく乾燥させます。ポンプ部分は、コップ等に水道水を取り、ポンプを 3 回以上プッシュして内部を洗浄し、内部の水を出してよく乾燥させます。定期的にボトル部分とポンプ部分の消毒も行います。

実際に毎週ボトル 25 本分のフッ化物洗口液を調整していますが、ボトルの保管場所を確保することが大変だったり、ポンプ部分の洗浄が難しいことなど色々な課題はありますが、この事業により児童生徒のむし歯本数が減ることを期待しています。